

はじめての漢方診療ノート

三瀨忠道 著

寺澤 捷年

(千葉大学大学院・医学研究院・和漢診療学教授)

漢方についての初心者向けの講演会などで、「漢方を手早く使えるようになるにはどうしたらよいのでしょうか?」という質問をよく受ける。東洋の知と西洋の知は異なったパラダイム(思考の枠組み)であるから、あたかも囲碁の名人が、手早くチェスの名人になれないのと同様に、それなりの別の努力が必要である。

「学問に王道なし」という諺があるが、漢方修得に王道はない。しかし、ある高山の登頂をしようとした場合、装備はもちろんだが、正確な地図や案内書を持ち、コンパスを持参することは遭難しないための必須の要件である。この意味で、「王道はある」かもしれない。

著者の三瀨忠道先生とは「千葉大学東洋医学研

究会」で同じ師匠(藤平健、小倉重成両先生)に師事し、富山医科薬科大学附属病院で「和漢診療科」を立ち上げた同志(嬉しいことに私が先輩)であるが、2年前に出版された「はじめての漢方診療 十五話」(医学書院)に続く、今回の「ノート」は、前著が「正確な地図」であるとする、本書が「地図の読み方と諸注意事項」と位置づけることができる。しかも自分自身で学び会得した事柄を記録するスペースが用意されている。

現代は情報化の時代であり、漢方についても情報が溢れている。そこで、筆者が提言したいことは、さまざまな情報に翻弄されるのではなく、「これと決めた地図と案内書」に沿って、まずは臨床実践の指針とするということである。

「はじめての漢方診療 十五話」と「はじめての漢方診療ノート」は誠にこれに相応しい教材である。まず、「これと決めてよい」ものとし、推薦する次第である。M

● B5 頁 139 2007 年

定価 3,360 円(本体 3,200 円 + 税 5%)

[ISBN 978-4-260-00452-7]